伊丹福音ルーテル教会 顕現後第五主日礼拝のしおり

2023年2月5日

前奏

招きのことば：詩編 40 編 12-18 節

主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく、慈しみとまことによっていつもわたしをお守りください。| 悪はわたしにからみつき、数えきれません。| わたしは自分の罪に捕えられ、何も見えなくなりました。その数は髪の毛よりも多く、わたしは心挫けています。| 主よ、走り寄ってわたしを救ってください。主よ、急いでわたしを助けてください。| わたしの命を奪おうとねらっている者が、恥を受け、嘲られ、わたしを災いに遭わせようと望む者が、侮られて退き、わたしに向かってはやし立てる者が、恥を受けて破滅しますように。| あなたを尋ね求める人が、あなたによって喜び祝い、楽しみ、御救いを愛する人が、主をあがめよといつも歌いますように。主よ、わたしは貧しく身を屈めています。わたしのためにお計らいください。あなたはわたしの助け、わたしの逃げ場。わたしの神よ、速やかに来てください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため、あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり、生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは自分の本当の姿を見ないで生きています。また、私たちを赦す救い主がいてくださることを認めないで生きていることがなんと多いことでしょうか。イエス様は人々の隠れた悪い心や、人を欺く偽善を暴いて、正しくまっすぐに神様の御前に立つことを教えてくださいました。また、イエス様はこの暗い世に、光として来てくださいました。罪を悔い改めて神様に憐みを願う人に、喜んでその罪を赦し、新しいいのちを与えてくださいます。神様、イエス様を信じて神の子とされた私たちが、私たちの住む世界が罪のために腐っていかないように、地の塩となって生きることができるように導いてください。また、私たちの住む世界の人びとにイエス様が私たちの罪を赦す救い主であることをあらわす世の光となって生きることができるよう、導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コリント人への第一手紙 2章 1-12節

兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。しかし、わたしたちは、信仰に成熟した人たちの間では知恵を語ります。それはこの世の知恵ではなく、また、この世の滅びゆく支配者たちの知恵でもありません。わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、／「目が見もせず、耳が聞きもせず、／人の心に思い浮かびもしなかったことを、／神は御自分を愛する者たちに準備された」と書いてあるとおりです。わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究め

ます。人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。

福音書朗読：マタイによる福音書 5章 13-20節

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消え去るまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。だから、これらの最も小さな掟の一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするようにと人に教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。

讃美歌 529番

- 1 ああうれし、我が身も 主のものとなりけり 浮世だにさながら 天(あま)つ世の心地す
※歌わでや あるべき 救われし身の幸(さち) たたえでやあるべき 御救いのかしこさ
- 2 残りなく御旨(みむね)に 任せたる心に えも言えず 妙なる 幻を見るかな ※
- 3 胸の波 おさまり 心 いと静けし 我もなく 世もなく ただ主のみ いませり ※ **アーメン**

説教：「光を人々の前に輝かしなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

少し圧力を感じる聖書の箇所ですね。前半にはあなたがたは地の塩であれ、世の光であれ、と勧め、後半では、律法をその専門家よりも厳しく果たして、よく守るようにと命じられています。実は先週から始まっているこの山上の説教、山上の垂訓とよばれている一連のお話は、マタイによる福音書の5章から7章まで続きますが、そこでははっきりした、具体的な命令が連続して語られています。クライマックスは5章48節で、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者になりなさい」と記されていて、それは私たちの完璧主義の領域をはるかに超えた基準が求められているということです。できるだけがんばれば、その努

力を認めてくれるというものではなく、天の父なる神様の完璧さと同じ完全さを持ったものとなりなさい、という要求です。山上の説教の最後は7章ですが、これらのイエス様の言葉を聞くことが大事であるとともに、それを聴くだけで行わない者にならないようにと警告されています。いいことを聴きました、よいお話を聞きました、参考にさせていただきます、ということではいけないのです。むしろ、聞いたことを行う者になりなさい、と命じられています。

聖書を読むと、苦しい時にほんとうに慰めになる恵みの言葉があつて、たいへん安心する体験をしますね。しかし、同じ聖書の言葉にはこのようないっさいの妥協を許さない厳しい命令が書かれています。天の父なる神様の完全さを身に着けるように、というお言葉からわかることは、神様の基準で生きない人には天国はほど遠いところということで、私たちは絶望します。

どうしてイエス様は厳しい言葉を語っておられるのでしょうか。どんなにがんばってもできそうにない正しい行いを私たちに突き付けておられるのに、どのような意味があるのでしょうか。このような厳しい聖書の箇所を読んだ感想として、これは聖書の理想を心に留めて自分たちはできるところからできるだけ頑張っていくことこそ大事だと教えているのではないですか、という声はよく聞きます。けれども、本当にそうだったらイエス様が、ここまでは本当は期待していないのだけれど、目標とすべきことを教えておくのでそれぞれががんばってやってみなさい、とおっしゃるはずです。イエス様がおっしゃったことはそのまま受け取ることが大切です。

今日読まれた箇所は、先週の「心の貧しい人は幸いです、天の国はその人たちのものです」から始まる八つの幸いのお話の続きとなっています。イエス様は山上の説教を、この八つの幸いのお話からお始めになったのでしたね。少し振り返ってみます。

心の貧しい人、とは、自分で達成できる幸せではなく、神様の恵みが自分には必要であることを自覚している人です。そしてその人には天国が与えられること、すなわち神様は恵みをお与えくださるということが約束されています。義に飢え乾いている人は、神様の求められる基準の義が私たちにはないということを自覚して飢え乾いているということです。そしてその人は満たされると約束されています。

恵みとは、罪の赦しと新しい命です。神様がイエス様のゆえに私たちの罪を赦して、神の子としてくださいること、新しいいのちを与えてくださることです。イエス様は人として、ここでご自分の教えておられる義なる生涯をお送りになり、それにもかかわらず私たち人類の全ての罪を担って神様から正しい裁きをお受けくださって死なれ、さらに私たちの初穂となってよみがえってくださいました。私たち心の貧しい者、神の義に飢え乾いている者は、洗礼によってイエス様とひとつにされて、イエス様に免じてすべての罪を神様の前で赦され、まるでイエス様が歩まれたような完璧な生涯を歩んだかのように取り扱われ、さらに古い私とは違ふよみがえりの新しい命にあずかっています。

そして新しい心は人々に憐み深く、清らかな心でこの世の様々な出来事の背後で治めておられる神様をしっかりと見ており、わるい考えを持って陥れようとする人や敵でさえも赦して人々の間に愛と知恵をもって平和を実現し、それでもあるときは義のために担っていかねければならない苦しみや犠牲を喜んで覚悟します。

先週はそのようなことを教えられました。では今日開かれた「地の塩」とは何でしょうか。「あなたがたは地の塩です」といわれました。塩気や塩味がなくなると役に立たないので外に投げ捨てられ、人びとに踏みつけられる、と言われていました。岩のようになった塩をよい大きさに砕いて紐でつるして必要な時に料理に入れていたのでしょうか。塩気がなくなると岩を外に捨てて人に踏まれることがあったのかもしれませんが。人が集まると、互いに甘えあいます。仲良くなるとどこか神様が求められる正しさや厳粛さが忘れられる気がしませんか。人々の間で義なること、ただしいことが保たれるように、私たちは塩気を保つようと命じられています。

地の塩というだけではなく、イエス様は「あなたがたは世の光です」とも言われました。山の頂の町のように隠れないでいなさい。灯は燭台の上において部屋の中を照らします。いつも人々の間で公けに生きていることを心に留めて、だれが見ていてもよいように、いや、それ以上に人々の模範となつて、あなたがたの行いの立派さを見る人々が、神様ってすばらしいな、と感じるようにしなさい、と言われてます。それは正しいことだと分かりますが、そんなことはできないという気持ちも起こります。

イエス様はこんな厳しい、実現不可能なことを律法として命じておられます。律法を廃止するのではなく、むしろイエス様は律法を完成するために来られました。あなたがたはこれらを守りなさい。そして守るように人々に教えなさい、律法学者やファリサイ人よりも正しく生きないと天国に行けませんと言われてました。なぜでしょう。

それはまず第一に、世の中で生きていくために、世の中に正しさや明るさがいつも必要であることを私たちが改めて知るためです。この世はまがっています。この世はいつも塩気によって不正に陥らないように、罪がそのまま隠れたままで放っておかれないように保たねければなりません。また、世ではいつも光によって正しい歩みが人々の模範とならねければなりません。神様はこの世の中に秩序と正しさを期待されています。そして、人びとがその中で平和に幸せに生きることができるようにと願っておられます。私たちも不正を見て見ぬふりをして通り過ぎていることがいかに多いことでしょうか。正しく歩むことで多くの人が苦しみと犠牲を強いられていることがいかに多いことでしょうか。まず世に正しさと明るさが必要であることを教えます。

第二に、私たちが心貧しいものだと言うことを教えます。私たちが甘えを捨てて、悔い改めるように迫ってくださるのです。正しい神様の前で、自分の罪深さを認めて悔い改めることです。自分中心でわがままな私たちは、人びとに対しては厳しい批判的な気持ちを持ちつつも、自分のことについてはどんな罪を犯しても、大目に見てくださって、応援してくださることを期待

します。このような甘えと悔い改めは似ていますが、神様に甘えは通用しません。小さな罪だから、憐み深い神様は大目に見てくださるでしょう、だから大丈夫です、というのは甘えです。優しい神様なら少しのことには目をつぶってくださいますからだいじょうぶですよ、と人に伝えることはよくないのです。イエス様は律法を廃棄するために来られたのではありません。神様は正しい裁きを妥協なさいませぬ。神様はひいきしている者をときどき赦すことがある、というのではありません。甘えは神様に正しくない方にしようとしてします。

しかしどうでしょうか。神の御子イエス様は、ご自分がすべての律法を守って、正しい生涯をお送りくださいました。イエス様は天の父の義のように、正しく歩んでくださったのです。そして、そのうえで正しくない私たちにかわって裁きに処せられてくださいました。神様は恵みの計画をお持ちです。それは私たち悔い改める者を、洗礼によってこのイエス様とひとつになることで、すべての罪を赦す約束です。大きな歴史の中で、2000年前に十字架の上で完成した私たちの罪の赦しを、今、ここに生きる私たちにお与えくださる計画です。私たちが自分の立場を主張し神様にすり寄って、赦しを要求するような私的な甘えは通用しません。むしろ、私たちは正しい神様の御前に立つことさえできない罪びとであることを悔い改め、そして神様から与えられる確かな赦しを信じます。神様が私たちの救いのために、このようにイエス様を遣わしてくださったことを信じて、イエス様のゆえに神様が正しく罪を赦してくださるように祈ります。身勝手なあいまいな甘えではなく、確かな神様の恵みによって正しくイエス様にあって私たちは罪の赦しをいただきます。

神様の目を盗んで悪いことをして、神様におもねって甘えによって抜け駆けして赦されるのではありません。神様が公けに成し遂げられた私たちの救いを、謙遜に感謝をもって受け取ります。甘えは神様の正しさを曲げること、しかし恵みを待ち望むことは、正しい神様が正しくない私たち罪びとを、正しくイエス様によって赦していただくことです。

第三に、正しく罪赦された者は新しい心が与えられています。赦されたことを喜んで、神様の恵みにこたえたいと言う新しいいのち溢れる心です。神様が「あなたがたは地の塩です」と言われるのなら、自分ではできないけれど、それを圧力として受け取るよりも、祈りとして生きていきます。神様、私を地の塩、世の光としてくださってありがとうございます。祈りつつ地の塩として生かされているところで甘えを廃して正義を保ちましょう。「あなたがたは世の光です」とおっしゃるなら、この世にあって愛と希望をもって、苦しみに耐え、自分を鍛えて、人びとと共に明るい幸せをつくっていくように、心を籠めましょう。イエス様はそのようにして私たちを平和を実現する者、世に正しさを明るく掲げる者としてお用いくださいます。

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書5章16a節
人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讚美歌 453 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 聞けや 愛の言葉を もろ国人らの 罪とがを除く 主の御言葉を 主のみことばを
※やがて時は来らん 神のみ光りの あまねく世を照らす 明日は来らん
- 2 見よや 救いの君を 世のため悩みて 贖いの道を 開きしイエスを 開きしイエスを ※
- 3 歌え声を合せて あめつちと共に 喜びに満つる 栄えの歌を 栄えの歌を※ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏